

2018 年度
事業報告書
会計報告書



インドネシア GMIMベテスダ病院で働く元奨学生

†
MTC
JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人

日本キリスト教海外医療協力会

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 今年度の歩み	1
2. 中長期計画における位置付け	3
3. 海外諸活動	3
3-1 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	3
(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー	5
(3) タンザニア 雨宮春子ワーカー	6
(4) 短期	6
3-2 奨学金事業	6
3-3 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)	11
(1) SALTプロジェクト カンボジア	11
(2) シロアムプロジェクト ケニア	11
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト	13
3-4 災害救援復興支援	13
4. 国内諸活動	14
4-1 国際保健人材育成	14
4-2 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動	16
4-3 マーケティング	22
5. 運営体制	27
5-1 第57回定時社員総会	27
5-2 理事会	27
5-3 委員会	28
5-4 事務局	29
6. 一般会員・社員会員の現状報告	30
7. 2018年度の主な動き	30
8. 会計報告	33
貸借対照表	33
貸借対照表内訳表	34
正味財産増減計算書	35
正味財産増減計算書内訳表	38
財務諸表に対する注記	41
附属明細書	43
財産目録	44
監査報告書	46
付録. 2018年度出版物に掲載された記事の一部	48

1. 今年度の歩み

＜常務理事 大友宣＞

この憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。(ルカによる福音書 1 章 78～79 節)

聖書は私たちに、暗闇と死の陰に座している者たちが照らされるとき、私たちの歩みが平和の道に導かれると語っています。JOCS は今年度、暗闇と死の陰に座している者たちが照らされるために活動を続け、平和を創り出す役割を目指して来ました。平和を創り出す活動は、ときには危険があり、ときには涙を伴い、ときには喜びを伴うものです。JOCS の平和を創り出す活動の最前線にいるのは、ワーカーやワーカーが働く現地の組織の方々、現奨学生や奨学生修了者、協働プロジェクトの協力団体の方々、事務局スタッフたち、そして、現地で病気や貧困のただ中にある方々です。そしてその活動が今年も会員、支援者、ボランティアの皆様によって支えられました。

弓野綾ワーカーはタンザニアで慢性疾患外来を立ち上げ帰国し、報告会を全国各地でおこないました。キリスト教病院の人たちと共に生きながら、共に泣き、共に喜ぶ姿がありました。これまでの働きに感謝します。山内章子ワーカーはバングラデシュの障がいのある方と共に生き帰国しました。特に障がいのある女性らに自らの魂を砕きながら仕事をされ、召し出され遣わされるキリスト者の姿がありました。これまでの働きに感謝します。岩本直美ワーカーはバングラデシュの知的障がい者と共に生きています。異文化、異宗教の垣根を超えて神がはたかれる現場を創り出す働きをしています。また、新しく雨宮春子ワーカーが、助産師としてお母さんや子どもたちと共に生きる道を選び、タンザニアに赴きました。

今年も奨学生に対して支援をおこないました。事務局スタッフが現地を訪問しモニタリングをおこなうことで、効果的で顔が見える奨学金の運用になっています。なにより『みんなで生きる』や年次報告書に、奨学生が自らの「ものがたり」を語っており、これによって奨学生が平和を創り出す役割を果たしてくれていることを確信することができました。

協働プロジェクトはカンボジアでは健康教育、ケニアでは療育事業、タンザニアでは母子保健をおこなっています。3 つとも女性と子どもに焦点をあてた活動になっています。女性と子どもが活躍できる社会は平和な社会とも言えるかもしれません。現地の団体と協働しながら、補い合ってプロジェクトを進めることが共に生きることに繋がります。

JOCS ではワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクトの 3 事業をおこなっていますが、特にタンザニアでは 3 事業の連携を深めてきました。2018 年 4 月に母子保健プロジェクトを開始、2019 年 1 月に助産師の雨宮春子ワーカーを派遣、多くの元奨学生が働く聖ヨハネ・パウロ 2 世病院で活動することになっています。この病院は以前実施した診療統計分析能力強化プロジェクトによって、資金を得ることができました。3 本柱の事業を連携さ

1. 今年度の歩み

せることで地域に大きなインパクトを与えられることを実感しています。

国内では、関西事務局が50周年を迎えました。関西事務局を中心におこなわれるボランティアな行事はいつもJOCSを活性化してくれます。関西事務局はJOCSが様々なボランティアや教会員、市民とつながっていることを実感させてくれる現場になってきました。50年継続できたことに感謝します。東京事務局は今まで賃借していた部屋を購入することができました。日本キリスト教会館というエキュメニカル活動の現場で、日本のキリスト教界と協働しながら平和の実現に向けた活動をすることができるようになりました。

2018年度は、「5ヵ年計画2018」の初年度でした。「取り残された一人ひとりを捜し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」ことを目指して作成したこの計画を実現するよう一步一步進んできました。これからも、共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。2018年度も、多くのボランティアの皆様がJOCSの活動を支援してくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 中長期計画における位置付け

2018年度は5ヵ年計画2018の初年度であった。「取り残された一人ひとりを探し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」というビジョンのもと、活動を実施してきた。初年度のため、前の5ヵ年計画の最終年の活動を引き継ぎつつの開始であった。

5ヵ年計画2018では、会員・寄付金を増やし、財務基盤を安定化させ、ワーカーの発掘育成を常にしつつ、ワーカーの活動・奨学金事業・協働プロジェクトで成果を上げることを目指している。その手始めとして会員の減少に歯止めをかけるべく多くの試みをしてきた結果、2018年度は会員減少幅が小さくなった。財政的にも、会員を始め、多くの寄付者の方に支えられ、安定的事業運営のできる状態に向かいつつある。

一方、海外ではこの一年、バングラデシュでテロ関連の不安要素は減少しつつも、国政選挙に関わる暴動などがあり一進一退が続いていたり、またケニアでは2019年1月に高級ホテルが武装集団の襲撃を受けたりした。また、カンボジアでは非民主的な選挙により一党独裁体制が成立するなど、決して安定した平和な世界の中での活動ではなかった。

そのような情勢ではあったが、新たなワーカーの派遣、新たな協働プロジェクトの始動、ケニアで初めての奨学金事業実施をするなど前進があった。中期計画のビジョンの実現にむかって実りのある活動となっていくよう努めていきたい。

3. 海外諸活動

海外派遣は3名、協働プロジェクトは3件、奨学金では47名を支援した。タンザニアへの新規ワーカー派遣と新規協働プロジェクト開始、ケニアでの初めての奨学生誕生が2018年度の新たな動きである。災害救援復興支援としては9月のインドネシアのスラウェシ島地震の被災者救援活動への支援を行った。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは、岩本ワーカーが第6期を継続し、山内ワーカーが第3期の活動を11月まで実施し帰国した。1月には雨宮ワーカーがタンザニアに赴任し、第1期を開始した。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先 : L'Arche Mymensingh (ラルシュ・マイメンシン)

派遣期間 : 2016年7月～2019年7月

活動概要 : 知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

3. 海外諸活動

ラルシュ・マイメンシンの以下の活動を支援した。

- 1) コミュニティの法的文書に関する見直し作業をおこなった。3種類あった法的登録文書を整理し、弁護士の助言を得てその見直しを行い、修正案を作成した。特にコミュニティの財産管理、また異なる宗教の者たちの協働によって管理運営される点を明瞭にした。
- 2) コミュニティの賃貸家屋の利用状況について、安全面及び財政管理の視点から見直しをおこなった。その結果、女性の家と作業所がそれぞれ新しい場所へと移転した。これにより、メンバーたちの安全はもとより、財政面で大きな支出削減を図ることができた。
- 3) 2017年のショプノニール（夢の家、男性の住まい）の新築、および上記2)にともなう生活上の変化に速やかに適応できるように、作業所と成人のデイケアプログラムに通うメンバーたちの支援をおこなった。意欲のある新任の電気自動車の運転手を迎えたことで送迎が改善し、作業所とデイケアに地域から通うメンバーたちの通所状況が良くなった。
- 4) コミュニティの土地に隣接する新しい土地（7デシマル≒0.01エーカー×2か所）を購入することに関し、国際ラルシュとラルシュ・マイメンシンの理事会が合意した。これは財政対策を含むコミュニティの長期的な展望と将来的な生活の現実をふまえて決定された。
- 5) 次期コミュニティリーダーの選出基準およびその過程について明文化した。またコミュニティメンバーのみからなるリーダーシップチームの選出（任期2018年11月より1年間）をおこなった。これは将来的なリーダーシップ移譲過程の一つである。
- 6) 国際ラルシュ財務主任と新任のバングラデシュ財務管理担当者（任期2年）を迎え、現状理解と今後のコミュニティの財政対策について検討した。
- 7) アシスタントの養成プログラム（バングラデシュ障がい者支援法について／知的障がい分野関連／精神障がい分野関連／リーダーシップトレーニング／インドのラルシュ訪問等）とリトリート（ヴィパサナ瞑想）をおこなった。ヴィパサナ瞑想は宗教の違いに関わらず、全てのアシスタントから大変良好に受け入れられた。
- 8) 地元ファンドレイズを継続しておこなった。また政府関係者の支援により、障がい者手当が未支給であった11名に関するも支給申請を行うことができた。これにより次年度より家に暮らす21名全員が手当を受給できる見通しを得た。
- 9) 国内外の訪問者とボランティアの受け入れをおこなった。
- 10) 精神科医の森数美氏を3月に短期専門家として派遣し、精神医療ケアの指導と助言を行った。



地元の支援者を交えたイベントを盛り上げる岩本ワーカー

(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー (理学療法士)

派遣先 : PCC (Protibondhi Community Centre : 障がい者コミュニティセンター)

派遣期間 : 2015年6月~2018年12月

活動概要 : 主に理学療法技術者のトレーニングをおこなった。

1) PCC (障がい者コミュニティセンター、マイメンシン県)

- 理学療法技術を学んだモモタス氏、アズゴール氏、レハナ氏の3名が JOCS の奨学金によって CDD (Center for Disability in Development) のトレーニングを受けた。レハナ氏は女性クラブ (障がいを持つ女性たちの集まり) の専従となり、バングラデシュで初であろう女性障がい者専門の訪問リハビリテーションを実施している。
- CPIC (Cerebral Palsy Introduction Course : 脳性麻痺紹介コース) を完了した。修了者はそれぞれ PCC のフィールドワーカーとして働き、障がい児・者を発掘し、PCC につなげている。
- PCC 代表と話し合い、PST (Program Steering Team : プログラム運営会議) を組織した。これにより代表及びプログラムコーディネーターが、女性クラブのリーダーのタフミナ氏と定期的に話し合いが持てるようになった。
- 女性クラブのメンバーの手工芸ブランド「オンクール」の商品開発、新しい卸し先の発掘、ショールームのレイアウトなどについて、実務上のアドバイスをとおこなった。また会計監査を習慣化させた。
- 男性社会にあって、女性たちが自ら担える部分も男性に依存してきたことを明確にし、女性たちの問題は女性たちで解決する価値観を持てるよう支援した。現在女性たちは、ほとんどの問題を自分たちで適切なアドバイザーを見つけて、自ら解決している。

2) Kailakuri Health Care Project (通称カイラクリ・クリニック、タンガイル県)

クリニックへの月2度の訪問、シルピー氏の月1度のマイメンシン訪問の機会をつくり、シルピー氏のトレーニングを実施した。シルピー氏は重度から中等度の脳性麻痺児の理学療法が実施できるようになった。



シルピー氏を指導する山内ワーカー

3) PKS (Protibondhi Koran Shomiti、カリバリ障がい者協会、マイメンシン県郊外)

PKS 代表ロフィクル氏の給与がドイツの NGO “MATP” から出なくなり、他団体への支援要請のための訪問やトレーニングなどで不在が多くなった。その結果、7月以降は山内ワーカーの訪問による理学療法の施術及び知的障がい児のデイケアが自然消滅した。ロフィクル氏と話し合い、デイケアを閉じたが、今まで PKS をサポートしてきたティナ氏は、デイケア再開の際には今までどおりサポートする旨、同意している。

3. 海外諸活動

(3) タンザニア 雨宮春子ワーカー (看護師・助産師)

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)

St. John Paul II Hospital (聖ヨハネ・パウロ 2 世病院)

派遣期間：2019 年 1 月～2022 年 1 月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト(協働プロジェクト)の活動。TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援を行う。

1) JOCS 事務局研修

2018 年 12 月、JOCS 事務局で研修を実施した。研修期間中派遣に係る手続きを進めたほか、倉辻忠俊元タンザニア派遣ワーカーがタンザニアとタボラの保健医療事情や母子保健事情、統計などについて講義を実施した。



ダルエスサラーム聖公会の
マザーズユニオンの皆さんと

2) スワヒリ語研修

1 月から 3 ヶ月、ダルエスサラーム市内の語学学校にてスワヒリ語の研修を実施した。雨宮ワーカーはスワヒリ語の研修を受ける中で、現地の生活や文化にも慣れることができた。

3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

TAHO 傘下の 8 ヶ所の保健医療施設から JOCS が収集した母子保健データの分析を進めた。

4) 派遣式とファンドレイズ

北海道札幌市で派遣式を実施した。また、北海道で支援をよびかけ、39 名が入会した。

(4) 短期

2018 年度は短期ワーカーの派遣はなかった。

[3-2] 奨学金事業

2018 年度はインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニア計 6 ヶ国の 47 名を支援した。そのなかでは、ケニアは初めての支援となった。ウガンダの最終報告書の収集状況に問題があるなどの課題が浮き彫りになった。また、JOCS の支援から卒業できる協力団体も出てきている。そういったことから事業のありかたを再検討し、協力団体の全体的見直しを行い、国別の支援方針も策定した。

(1) インドネシア

故田村久弥元ワーカーや故塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先であ

った GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く 4 名を引き続き支援した。1 名は家庭の事情により進学を断念し、奨学金を辞退した。

インドネシアでは、看護師長は看護修士を取得することが義務付けられるなど、配置すべきスタッフの人数や資格の基準が保健医療施設の規模に応じて細かく規定されており、それが順守されているかどうか、政府が厳しくチェックを行っている。順守できない場合は、政府から保健医療施設としての認定を受けることができなくなることもある。そのため、各保健医療施設からはその基準を満たすための研修を希望する申請が続いており、その要請に応えた。

(2) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、LMN アナンダバン病院、UMN、タンセン保健科学専門学校（旧タンセン看護学校）とこれらの組織の関連病院で働く保健医療従事者 11 名を支援した。

山間部の医療へのアクセスの難しい地域に有る保健医療施設で、既に基礎的な分野での研修を終え、看護・助産や臨床検査、理学療法などの分野で准看護・助産師または助手として働いている人たちに対し、レベルアップまたは専門的な内容の研修を受けるための支援を行った。また、専門医の資格取得を希望する人に対する支援も行った。

(3) バングラデシュ

小原澤榮子元ワーカーや乾真理子元ワーカー、山内章子ワーカー派遣先のセントビンセント病院、カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（通称カイラクリ・クリニック）、PCC で働く 6 名を支援した。

ディナジプール県セントビンセント病院所属のシスター 2 名は、看護師として病院に勤務しながら看護学士コースを終えた。

カイラクリ・クリニックからは、2018 年 1 月から 3 年間のパートタイムコースでパラメディック技術（*）の研修を開始したスタッフに加え、もう 1 名、医長代行のシニア・パラメディックスタッフが 2018 年度に採用された。

PCC の理学療法技術者 2 名は当初 2017 年度内で研修を終える予定だったがコース開始が遅れたため 2018 年度にまたがって障がい者支援研修を受けた。

*パラメディックとは准医療従事者の意、カイラクリ・クリニックでは創立者のベーカー医師亡き後、常駐医がおらずパラメディックが医療を担っている。

(4) ウガンダ

2 つの協力団体、UPMB およびリーチアウト・ムブヤを通じて、11 名を支援した。

UPMB 傘下の奨学生については、2017 年度から支援している奨学生のうち 6 名が 2018 年度内に研修を終えた。いずれも首都から離れた交通の便の悪い遠隔地の病院・診療所に勤務するスタッフで、医師、正看護師・助産師、臨床検査技師の資格を取得し

3. 海外諸活動

た。1名は2020年まで看護学士を目指して継続中。

2018年度の新規奨学生として、UPMB傘下でウガンダ北部、南西部、中部の僻地医療を担う3つの施設より各1名を採用し、公衆衛生、助産、看護のコースで研修を開始した。また首都カンパラ近郊でHIV/AIDSケアを担うリーチアウト・ムブヤより准看護師1名を採用し、看護学士取得を支援している。

また、出願時の不正が判明した奨学生と、学校に合格したにも関わらずに未就学であったことが判明した奨学生がいたため、計2名分の支給済み学費の弁済（他の奨学生の学費への充当）をUPMBに求めた。さらに最終報告書が未提出の奨学生が約20名いるため、モニタリングの強化と説明責任をUPMBに申し入れた。

(5) ケニア

協働プロジェクトを実施しているシロアムの園の理学療法スタッフを2018年度に1名採用した。2018年9月から3年間、週末のパートタイムコースで理学療法学士を取得する予定である。

(6) タンザニア

雨宮春子ワーカーの派遣先であるTAHO傘下にある保健医療施設で働く、新規を含む14名を支援した。

研修を受けず、または基本的な短期研修を受けただけで、資格を持たずに保健医療施設で助手として働いているスタッフが多い。保健医療施設の中には、このような助手しかいない施設もある。そのため、看護・助産、臨床検査、医学などの分野で基礎的な資格を取得することを希望する人たちへの支援を行った。比較的規模の大きい医療施設に対しては、レベルアップや麻酔などの専門分野の研修を受けるための支援をおこなった。

支給者表略語一覧

- *GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)
- *GMIM : Geredja Masehi Indijili Minahasa (ミナハサ福音教会)
- *ICAHS : Indonesia Christian Association of Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス教会)
- *HDCS : Human Development and Community Service (ネパールのキリスト教系 NGO)
- *LMN : The Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO)
- *UMN : United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)
- *PCC : Protibondhi Community Centre (障がい者コミュニティセンター)
- *UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
- *TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

2018年度奨学生一覧

3. 海外諸活動

インドネシア (4名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
会計スタッフ	26	女	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年06月 ~ 2020年05月
データ管理、医療記録担当者	20	男	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2018年07月 ~ 2021年06月
看護師、治療室主任	29	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	看護学	2017年09月 ~ 2019年09月
看護師長	45	女	ICAHS Emmanuel Hospital Klampok	看護学	2017年08月 ~ 2019年08月

ネパール (11名)

診療放射線技師助手	45	男	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	放射線診断学	2016年10月 ~ 2019年10月
准看護・助産師	30	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	看護学	2018年08月 ~ 2021年08月
看護師・助産専門技能者	33	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2017年09月 ~ 2020年09月
歯科助手兼准看護・助産師	23	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	歯学	2018年08月 ~ 2021年08月
図書館司書	35	男	Tansen School of Health Science	図書館情報	2018年06月 ~ 2019年06月
看護講師助手	31	女	Tansen School of Health Science	看護学	2018年10月 ~ 2021年10月
理学療法士助手	31	女	The LMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年08月 ~ 2021年02月
看護師	29	女	The LMN Anandaban Hospital	看護学	2016年10月 ~ 2019年10月
医師	41	男	The LMN Anandaban Hospital	医学	2017年04月 ~ 2020年04月
臨床検査技師助手	29	男	UMN Hospital Tansen	臨床検査	2016年10月 ~ 2019年10月
准看護・助産師	40	女	UMN Hospital Tansen	看護学	2016年10月 ~ 2019年10月

バングラデシュ (6名)

パラメディック	26	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2018年01月 ~ 2020年12月
医長代行	33	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2019年01月 ~ 2022年01月
フィールドオフィサー	35	女	PCC	障がい者地域支援員	2018年03月 ~ 2018年04月
フィールドオフィサー	37	男	PCC	障がい者地域支援員	2018年03月 ~ 2018年04月
看護師	33	女	St.Vincent Hospital	看護学	2016年07月 ~ 2018年09月
看護師	35	女	St.Vincent Hospital	看護学	2016年07月 ~ 2018年09月

ウガンダ (11名)

准看護師	26	女	Reach Out Mbuya	看護学	2018年08月 ~ 2021年06月
看護助手	32	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2017年11月 ~ 2020年05月

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
検査助手	33	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	臨床検査	2015年08月 ~ 2018年07月
准看護師	28	男	UPMB Diocese of Northern Uganda /St. Luke HC II	看護学	2018年07月 ~ 2019年12月
看護助手	33	男	UPMB Kei Health Centre, Here is life	臨床医学・公衆衛生	2012年09月 ~ 2018年06月
検査助手	30	男	UPMB Kiwoko Hospital	臨床検査	2015年08月 ~ 2018年08月
准看護師	27	女	UPMB Soroti Diocese /Kateta COU HC II	助産学	2018年07月 ~ 2019年12月
准看護師	36	男	UPMB South Rwenzori Diocese	臨床医学・公衆衛生	2015年05月 ~ 2018年05月
准看護師	30	女	UPMB South Rwenzori Diocese	助産学	2017年05月 ~ 2018年11月
准医師	39	男	UPMB South Rwenzori Diocese /Kinyamaseke HCIII	公衆衛生	2018年08月 ~ 2021年08月
准看護師	34	女	UPMB Wii Anaka HC/II, Diocese of Northern Uganda	看護学	2017年05月 ~ 2018年11月

ケニア (1名)

理学療法士	26	男	The Garden of Siloam	理学療法	2018年09月 ~ 2021年09月
-------	----	---	----------------------	------	---------------------

タンザニア (14名)

シスター、医師補	41	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月 ~ 2023年10月
医療助手	24	男	TAHO Kipalapala Dispensary	臨床検査	2017年04月 ~ 2019年04月
医療助手	30	女	TAHO Ndala Hospital	放射線診断学	2015年11月 ~ 2018年11月
シスター、病院管理責任者	41	女	TAHO Ndala Hospital	病院運営	2017年10月 ~ 2022年10月
シスター、医師補	35	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月 ~ 2023年08月
医師補	34	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2012年08月 ~ 2018年08月
医師補	32	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2014年10月 ~ 2019年10月
看護助手	29	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	薬学	2015年11月 ~ 2019年11月
清掃員	22	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2016年06月 ~ 2019年06月
看護主任	36	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	麻酔学	2018年01月 ~ 2019年01月
医療助手	24	男	TAHO St. John Paul II Hospital	看護学	2015年11月 ~ 2018年11月
医療助手	24	男	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2017年09月 ~ 2019年09月
医療助手	31	女	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2018年09月 ~ 2020年09月
准看護・助産師	24	男	TAHO St. John Paul II Hospital	看護学	2018年10月 ~ 2019年10月

* 職業欄の職務・職種は、奨学金申請時点のもの

[3-3] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる） (Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

カンボジアの SALT プロジェクトとケニアのシロアムプロジェクトを継続実施した。それらに加えて、4月からタンザニアで、母子保健に関する活動である、ママ・ナ・ムトプロジェクトを新たに開始した。

(1) SALT (Sokkaphheap Anamai La-or sumrup samai Thmey=次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国	: カンボジア
活動地域	: バッタバン州
プロジェクト期間	: 2014年10月1日～2019年9月30日
協力団体	: バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者	: バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標	: 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

進捗状況:

案件開始当初から事業管理を担ってきたシスター・チャンタナの後任として、同じウルスラ会に所属するインドネシア人のシスター・アンティンが第4年次中盤になってようやく任命され、2018年5月頃から正式にプロジェクトに関われる状況になった。バッタンバン司教区の責任者は相変わらず多忙で、本プロジェクトへの関与が薄い。シスター・チャンタナのもとで育成された現地スタッフ2名が事業運営、会計を担っており、活動は計画どおりに進められている。

第4年次(2017年10月～2018年9月)は、この現地スタッフ2名のイニシアチブで小学校12校(うち新規3校)、中等学校5校(うち新規1校)を巡回して健康教育、思春期教育を実施した。2018年5月の現地モニタリング調査では、小学校2校、中等学校2校の授業を参観し、スタッフの伝える力が高まり、授業の質が向上していることを確認した。思春期教育では、学校により高校1年生(10年生)を対象としているケースもあり、生徒から電話相談も受けるなどして、有益な授業が提供されている。生徒へのインタビューでは「妊娠・出産の過程を初めて聞き、驚いたが、知ることができてよかった」男子生徒、「妊娠・出産の仕組みがわかり勉強になった。自分のこととして考えると怖い。同時に母親を尊敬し、感謝する気持ちが湧いてきた」(女子生徒)という声が聴かれた。

2018年10月から第5年次(最終年次)の活動に入り、小学校15校、中学校4校を対象として健康教育、思春期教育を実施している。

(2) シロアムプロジェクト

対象国	: ケニア
活動地域	: キアンブ地方行政区 (County) インデンデル地区

3. 海外諸活動

プロジェクト期間 : 2016年4月1日～2021年3月31日 (5年間)
協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

進捗状況:

プロジェクト開始以来、3学期制の療育サービスが定着し、登録児数も開始時39名(2016年)から、78名(2018年12月現在)に拡大している。スタッフ14名(2018年12月現在)が協力し、一日あたり12～15名の子どもを受け入れ、うち4～6名/日が作業・理学療法を受けている。学期毎に来所曜日を決め、週1～3回来所の子どもが多い。親の理解が進むにつれ、欠席数は減っている。全体的に自閉症児が増加傾向である。また軽度身体障がいや定期診察やセラピーのみに来る児も増加している。

第3年次(2018年4月～2019年3月)も原田真帆短期専門家(特別支援教育支援)、山内章子ワーカー(理学療法支援)を短期派遣した。原田専門家による2回目の指導を通じて、朝の会のプログラム運びやその後のクラス活動への移行がスムーズになり、子どもたちの集中力が途切れないよう改善されてきている。また障がい児の生活・学習能力のアセスメント、個別指導計画、活動プログラムの実施・評価、教材作成等における療育特別支援教師2名の能力が養われてきた。週1回のグループ療法は、イーグルクラス(軽度障がい)、ダヴクラス(重度心身障がい)、その中間のスワロウクラスの3クラス体制が定着し、各クラスにアシスタントと日本人ボランティア(定期ボランティア4名)が加わって、毎回、準備・実施・レビューがおこなわれている。

また3回目の派遣となった山内章子ワーカーは、理学療法スタッフのムハンジ氏とともに作業療法スタッフのバシリサ氏への指導も行った。ムハンジ氏に対しては、前回の派遣に続き、発達、姿勢・動作、姿勢反射、筋緊張の各評価能力を高めること、評価に基づくセラピープログラムの立案ができることを目標として指導が行われた。ムハンジ氏は、児の状態の評価や改善された動き・部位の見定めがまだ的確ではなく、状態に即したセラピーができないため、特に評価の基本知識の再確認に注力した。作業療法士のバシリサ氏は、セラピー中の姿勢保持、姿勢反射評価、筋緊張評価について指導を受け、手技を体得し、セラピーに反映できるようになっている。また理学療法士と作業療法士の連携の助言も行い、改善されてきている。

協力期間の折り返し地点を迎え、シロアムの園から中間報告書の提出を受けるとともに、2018年9月に中間レビュー(現地調査)を実施した。スタッフや受益者のインタビューでは、受益者の満足度が非常に高く、受益者自らが身近にいる障がい児・家族にシロアムの園を紹介し、連れてくるケースも多数あり、シロアムの園が温かい支え合いの場となっていることが確認された。またスタッフの献身的な思いも強く、プロジェク

ト目標である「シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される」の達成にむけ、順調に活動が進展している。

(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト

対象国 : タンザニア
 活動地域 : タボラ州 タボラ大司教区
 プロジェクト期間 : 2018年4月～2023年3月(5年間)
 協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
 受益者 : TAHO とその傘下の8の保健医療施設(病院や診療所など)
 プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

進捗状況 :

新規プロジェクトに関する情報収集と基礎調査を行った。

2018年4月に現地を訪問し、TAHO 傘下の保健医療施設の母子保健に関する診療統計の収集状況について確認をおこない、各保健医療施設の担当者から現地母子保健の状況について聞きとり調査をおこなった。その結果をふまえ、TAHO と今後収集するデータについて協議をおこない、データを収集するための記入フォームと入力フォームを作成した。

2018年7月から実際に TAHO 傘下の保健医療施設のデータ収集を開始し、回収したもものから入力を進めた。回収したデータを確認し、記入に誤りのある施設については、TAHO より説明を行い、再提出を求めた。回収のタイミングやフォームの入力など、TAHO および雨宮春子ワーカーと相談しながら作業を進めた。

TAHO では、2018年7月、10月、12月、2019年1月に妊婦健診と分娩、病院機能評価をテーマにスーパービジョンをおこなった。このうち2018年10月のスーパービジョンの際には、JOCS 事務局スタッフも同行し、各保健医療施設からデータを回収した。

2018年12月、TAHO は、スーパービジョンにも協力したタボラ州政府保健局の看護師を講師に招き、妊娠、分娩時における助産ケアをテーマに、セミナーを実施した。セミナーには、TAHO 傘下の保健医療施設から担当者が出席し、3日間の研修を受けた。

[3-4]災害救援復興支援

9月にインドネシアのスラウェシ島で発生した大地震と津波で被災した方々への支援として、GKST シナルカシ病院の要請に応え、20,000,000 インドネシアルピア(約15万円)を支出した。JOCS の元奨学生である医師と看護師からなる10名ほどのチームが地震翌日に、津波の被害の大きかったパル市内で医療支援をおこなった。現地では水、食料、医薬品などが不足しており、今回のJOCSからの支援は、医薬品、食料、飲料水、車両燃料の購入に充てられた。支援活動が想定より長引いたため、追加支援要請を受け、5,000,000 インドネシアルピア(約4万円)を追加支援した。

4. 国内諸活動

これまで、新規ワーカーの発掘育成を目指したスタディーツアー、勉強会などを実施してきた結果、2018年度には1名の新規ワーカーを派遣することができた。2018年度実施の勉強会、フィールドセミナーもワーカーに関心のある参加者を集めることができた。活動報告会としては弓野ワーカー、山内ワーカーがそれぞれ全国各地で報告会をした。広報活動では初めて実施したキリスト教書店での広報活動で会員を得ることができたなどの成果が上がった。

【4-1】 国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活動を目指す保健医療系の学生や、現職の保健医療従事者向けに、国際保健医療勉強会を4回、名古屋でのフィールドワークを1回実施した。当初計画していた「フィールドセミナー」と「JOCS若者の会（仮称）」の2つの活動は、合わせて「フィールドワーク」として実施した。

（1）国際保健医療勉強会

JOCSのワーカー志願者を念頭に、将来的に国際保健医療協力の分野に携わることを希望する人に学びの機会を提供するため、2018年度も計4回の勉強会を開催した。

第1～3回は「異文化における地域医療・へき地医療支援」をテーマとし、タンザニア、バングラデシュ、パキスタンの事例を取り上げた。各回とも講師による勉強会終了の後、ワーカー志願者に対し、森田隆事務局長が派遣希望者説明会（参加人数に応じ30分～1時間程度）をおこなった。

第1回 異文化における地域医療・へき地医療支援～タンザニア・タボラ州の事例～

日時：2018年6月2日（土）15:00～18:30

参加者：合計6名（女性5名、男性1名）

看護師3名、助産師1名、大学生1名、不明1名

【JOCS会員1名 非会員5名】

講師：弓野綾ワーカー

内容：JOCSワーカーになる前の活動から、派遣準備、タボラで取り組んだ活動内容、工夫や挑戦、直面した困難をどう乗り越えたか等を、タンザニア・タボラの社会・文化、医療事情を交えて話した。医療資源の制約の中で、何を優先し、どう患者・家族に向き合い、治療を進めたか、具体事例を紹介しながら求められた知識や医療者としての判断を伝え、また予防と早期発見の必要を痛感し、予防の仕組みづくり（慢性疾患外来のチームビルディング、持続性を視野にいれたマネジメント等）の取り組みを紹介した。

第2回 異文化における地域医療・へき地医療支援～バングラデシュ・カイラクリ村の事例～

日時 : 2018年7月7日(土) 15:00～18:45

参加者 : 合計10名(女性9名、男性1名)

産婦人科医1名、看護師・助産師・保健師・管理栄養士4名、NGO職員1名、
会社員1名、大学教員1名、大学生1名、高校生1名

【JOCS会員3名 非会員7名】

講師 : 乾真理子元ワーカー

内容 : バングラデシュ・カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクトで出会った患者達の様々な症例を紹介することを通じて、カイラクリ近隣農村において貧困が保健医療面でのどのような形で顕在化しているかを紹介しながら、カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクトの実施体制や治療の現状(訪問母子保健、DOTS、糖尿病等慢性疾患、一般外来、入院、食事、患者ケア・フォローアップ、予算等)について話した。また治療にあたり日本の知人医師にメールで意見を求める工夫や、カルテを記入するために日英ベンガル語の“Kailakuri Medical Dictionary”を作成するなど、外部者として僻地医療にこれから従事する者にヒントになる取り組みを紹介した。

第3回 異文化における地域医療～パキスタン・ファイサラバードの事例～

日時 : 2018年11月10日(土) 15:00～18:00

参加者 : 合計9名(女性5名、男性4名)

小児科医、看護師、助産師、救急救命士、ライター、NGO職員、大学院生、フリーランス、不明、以上各1名ずつ

【JOCS会員5名 非会員4名】

講師 : 青木盛元ワーカー

内容 : 先行研究や統計に基づいて、「医療×異文化理解」、「新生児医療×途上国」の考え方や途上国全般の潮流を冒頭に説明。その後、聖ラファエル病院やJOCS退職後に1年間従事したシンド州のLove & Trust Hospital(2013年設立、韓国プロテスタント教会の運営)の新生児医療の現状を具体的な事例を通じて紹介した(設備、クリスチャン・ムスリム医療スタッフ、患者・家族の生活環境・特性等)。機器、電気等が不十分な状況下、医療者(特にクリスチャン看護師・助産師)の熱意で新生児医療が支えられる一方で、新生児入院の条件である母親の付き添いが宗教的、また経済的に不可と判断するムスリム家族の多さ、手遅れになって来院する妊産婦・子どもの多さなど、医療者としての葛藤や蘇生・治療の判断の難しさも分かち合っていた。新生児や障がい児に向き合うクリスチャンとしての思いも語ってくださった。

第4回 国際協力とプロジェクトマネジメント

日時 : 2019年2月22日(金) 18:30-20:40

4. 国内諸活動

参加者：合計 6 名（女性 5 名、男性 1 名）

助産師 1 名、管理栄養士 1 名、NGO 職員 1 名、医大生 1 名、看護学生 2 名
【JOCS 会員 0 名、非会員 6 名】

講師：森田隆 JOCS 事務局長

内容：JOCS の基本方針と事業概要を紹介した上で、部外者として開発に携わるにあたり念頭に置くべき、開発ステージ（タイミング）と介入内容の相関性、技術移転とサービスデリバリーの違い、プロジェクトの概念とマネジメント手法・運営上の留意点などを説明した。

（2）国際保健医療協力フィールドワーク

国内のフィールドに足を運び、野宿者の置かれた状況を自分の目で見て、野宿者や支援者と交流することを通じて、人生の目標や何かを始めるきっかけを提供し、JOCS の活動への関心・理解を促すために、東岡牧理事のイニチアチブでフィールドワークを実施した。

日時：2018 年 10 月 27 日（土）～10 月 28 日（日）1 泊 2 日

場所：名古屋市中区若宮大通周辺

タイトル：フィールドワーク in 名古屋～野宿のおっちゃんたちから学ぶ 2 日間～

参加者：2 名（男女各 1 名／会社員・大学院生各 1 名）

プログラム概要：

- 1) 講義「貧困の連鎖と名古屋の野宿者」（東岡牧理事）
- 2) 野宿者巡回訪問・交流、炊き出し参加
- 3) 分かち合い

成果・評価：

少数の参加者で実施した今回、5 ヶ年計画 2018 のビジョンにある「取り残された一人ひとり」や彼らを支援する人々と交流し、より深くフィールドを味わい、参加者同士が互いに知り合っ てじっくり分かち合うことができた。

近年、フィールドセミナー／フィールドワークの参加数が伸び悩み、対象層の人数が集まりにくい状況が続いている。このため人材育成の質と量の拡充を実現できる実施のあり方を今後検討していく。

[4-2]国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

（1）使用済み切手運動

使用済み切手の寄付は、団体、個人合わせて 18,844 件、寄付総量は、約 9,800 キログラムあった。

集まった使用済み切手の整理は、新規参加者4名をあわせて、東京事務局21名、関西事務局38名のボランティアでおこなった。また、夏休みを中心に、小学生から大学生および大人、総勢21名のボランティア体験の受け入れをおこなった。

1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウヒロシマ 2018年6月16日～17日(広島県立広島産業会館)

2) 書き損じハガキキャンペーンの実施

書き損じハガキキャンペーン期間は、12月～2019年4月末日までの5ヵ月間であり、3月末現在で、目標の1万枚を上回る約22,000枚の寄付があった。呼びかけは、ホームページ、メールニュース、使用済み切手の受領書、チラシを通じておこなった。特に、チラシは、日本国内の教会向けダイレクトメールサービスを用いて、約8,000教会に配布した。また、書き損じハガキキャンペーンのチラシと同時に、外国コイン収集呼びかけのチラシも同時配布した。

3) 送料負担キャンペーン

2018年6月1日～11月30日の半年間、1箱5キログラム以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキをゆうパックで寄付していただいた場合に限り、送料をJOCSが負担した。

(2) ワーカー活動報告会

1) 弓野綾ワーカー活動報告会

タンザニアでの活動を終えて帰国した弓野綾ワーカーの報告会が、2018年5月～7月まで計34回、全国各地の教会や学校などで開催された。

弓野ワーカーは、現地の保健医療事情と慢性疾患外来の立ち上げを含む現地での3年間の活動の成果について報告した。また、これまでJOCSが10年間にわたりおこなってきた活動が現地でのどのように育ち、実を結んでいるのかについても、弓野ワーカー自身が出会った人たちのものがたりを通じて報告をおこなった。

2) 山内章子ワーカー活動報告会

バングラデシュから第3期の活動を終えて帰国した山内章子ワーカーの報告会が、2019年1月15日～3月31日まで計42回、全国各地で開催された。弱い立場におかれた障がいのある人々に寄り添い、彼らを支える現地の理学療法技術者を育ててきた歩みを、感謝とともに報告した。出自や宗教、障がいの軽重などの違いを越え、互いのあるままに受け入れ、重荷を負いあいながら生きる人々のなかに見いだされた平和の物語を、多くの人と分かち合う機会となった。主な訪問先は教会、学校、市民団体などである。

4. 国内諸活動

(3) 地区 JOCS 活動支援

2018 年度中におこなわれた地区 JOCS の主な活動は、以下のとおり。

仙台 JOCS		参加者数
毎月第 2 土曜日	使用済み切手整理作業「きってきっぺ」 (仙台市市民活動サポートセンター)	78 名
5/12	弓野綾ワーカー報告会 (仙台市市民活動サポートセンター)	25 名
9/17	せんだい地球フェスタに出展 (仙台国際センター展示棟)	-
足利 JOCS		
7/15	弓野綾ワーカー報告会 (日本キリスト教団足利東教会)	30 名
12/8	足利市民クリスマス (足利市民プラザ小ホール)	200 名
2019/2/10	山内章子ワーカー報告会 (日本キリスト教団足利東教会)	30 名
町田 JOCS		
毎月第 3 水曜日	使用済み切手整理作業 (メディカルホームグラニー玉川学園・町田)	-
7/1	弓野綾ワーカー報告会 (JOCS 町田カトリック共催) (カトリック町田教会)	50 名
12/12	クリスマス茶話会	8 名
2019/3/20	山内章子ワーカー報告会(メディカルホームグラニー玉川学園)	10 名
京都 JOCS		
4/7	第 15 回チャリティウォークソン (京都鴨川河川敷)	35 名
7/7	京都 JOCS のつどい 弓野綾ワーカー報告会 (河原町カトリック会館 6 階ホール)	30 名
9/21	第 40 回京都 JOCS チャリティーコンサート 黒沼ユリ子 ヴァイオリンリサイタル (京都コンサートホール)	312 名
大阪 JOCS		
7/28	関西事務局との共催 「オープンサタデイ」 弓野綾ワーカー 報告会 (大阪聖パウロ教会 2 階集会室)	20 名
1/26	関西事務局との共催 「オープンサタデイ」 山内章子ワーカー 報告会 (大阪聖パウロ教会 2 階集会室)	19 名
神戸 JOCS		
10/6	神戸 JOCS のつどい 金井和夫氏 (弓野綾ワーカーご 夫君) 講演会 (日本キリスト教団神戸栄光教会)	30 名
3/16	神戸 JOCS のつどい 山内章子ワーカー報告会 (日本 キリスト改革派神港教会)	40 名

芦屋 JOCS		
7/8	芦屋 JOCS のつどい 弓野綾ワーカー報告会（日本聖公会 芦屋聖マルコ教会）	120 名
3/17	芦屋 JOCS のつどい 山内章子ワーカー報告会（日本イエス・キリスト教団芦屋川教会）	40 名
四国高知 JOCS		
6/23	四国高知 JOCS のつどい 四万十集会 弓野綾ワーカー報告会（日本キリスト教団中村栄光教会）	9 名
6/24	四国高知 JOCS のつどい 高知集会 弓野綾ワーカー報告会（日本キリスト教団高知教会）	43 名
3/23	四国高知 JOCS のつどい 四万十集会 山内章子ワーカー報告会（日本キリスト教団中村栄光教会）	8 名
3/24	四国高知 JOCS のつどい 高知集会 山内章子ワーカー報告会（日本キリスト教団高知教会）	40 名

(4) 関西バザー委員会

毎年恒例の関西 JOCS バザーは、24 回目を迎え、2018 年 5 月 12 日（土）に大阪聖パウロ教会を借用して開催した。2018 年度も関西地区活動委員会の彼谷廣子委員をバザー委員長に、9 名のバザー委員と共に 4 回のバザー委員会を開き、実施した。2017 年度同様のべ 100 名以上のボランティアの方々の協力のおかげで、バザー当日は約 420 名の入場者があり、売上から 1,087,615 円を JOCS へ寄付した。使用済み切手も約 33 キロ集まった。

(5) 講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。問い合わせのあった以下の諸団体（18 団体）に講師を派遣した。

派遣時期	派遣場所
5 月	大阪保育福祉専門学校 大阪国際大学 尚綱学院中学校 尚綱学院高等学校 女子学院中学校
6 月	大阪天神橋ライオンズクラブ
7 月	捜真女学校中学部・高等学部 関東学院六浦中学校

4. 国内諸活動

	関東学院六浦高等学校 明治学院中学校 明治学院東村山高等学校
10月	マロニエ医療福祉専門学校
11月	マロニエ医療福祉専門学校 香蘭女学校 恵泉女学園中学・高等学校 関西学院大学
12月	マロニエ医療福祉専門学校 戸山教会附属戸山幼稚園
2019年1月	聖隷クリストファー大学 土浦めぐみ教会附属マナ愛児園
2月	成増高等看護学校（4回）

（6）事務局訪問受け入れ

JOCSの活動や使用済み切手運動について学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れをおこなっている。今年度は、学校など、計10団体の訪問があった。

<東京事務局> （4団体 32名）

アレセア湘南高等学校、恵泉女学園中学・高等学校、明治学院高校（2回）
 青山学院高等部ボランティア部

<関西事務局> （6団体 59名）

大阪産業大学（9人）、大阪市北区社会福祉協議会（10人）、
 大阪西ロータアクトクラブ（2回）（10人+12人）、障害者支援施設エフオール（4人）
 社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会大阪市職業リハビリテーションセンター
 （10人）
 積水化成品工業株式会社（4人）

（7）視聴覚資料

希望者に、DVD、写真パネルの貸し出しをおこなった。

2018年度は、2件の貸し出し依頼があった。

なお、視聴覚資料は、JOCSの活動を報告する機会にも活用されており、2018年度は、『アサンテ サーナ (Asante Sana) タンザニアにまかれた種』をチャリティ映画会や弓野綾ワーカー活動報告会で上映した。

(8) 関西事務局開所 50 周年記念イベント

共に生きる喜びを見つけて 50 周年記念メッセージ&パイプオルガンコンサート

日時 : 2018 年 11 月 17 日 (土) 午後 2 時～5 時 (開場午後 1 時半～)

場所 : 日本キリスト教団 浪花教会 礼拝堂及び集会室

来場者 : 112 名

プログラム内容 : ①記念礼拝 村上公彦牧師説教

②パイプオルガンコンサート 土橋薫氏 (オルガニスト)

乃村八千代氏 (ソプラノ歌手)

内容 :

関西事務局開所 50 周年の記念イベントに、つながりのある団体の人をはじめ、多くの方が来場した。思っていたよりも礼拝堂に人数が入らないとわかり、当日集客人数を心配したが、ちょうど満席となり、全ての人にイベントを楽しんでもらうことができた。当日 1 名の新規入会者があり、後日 2 名から寄付があった。村上牧師の話聞き、懐かしく思い出されたこともあり、また多くの人に支えられ 50 周年を迎えられたことを強く思わされた。土橋薫さんの力強いパイオルガンの音色と、澄み渡る乃村八千代さんの美しい歌声に魅了された。茶話会にも多くの人が残り、良い交流の機会を持つことができた。

(9) チャリティ映画会

日時 : 2018 年 11 月 22 日 (木)

場所 : カメリアホール (東京都江東区亀戸 2-19-1 カメリアプラザ 3 階)

上映作品 : デンマーク映画「バベットの晩餐会」

来場者 : 朝の部 151 名

昼の部 144 名

夜の部 68 名

当日ボランティア : 11 名

内容 :

映画の内容に関心がある人に JOCS のことを知ってもらい、新規の支援者を増やすことを目的として映画会を開催した。活動紹介のために、本編上映前に DVD『アサンテ サーナ タンザニアにまかれた種』を上映した。DVD 上映後には、JOCS の活動支援の呼びかけをした。本編終了後、当日ボランティアと共に、会場出口にて JOCS の活動支援のための募金の呼びかけをおこなった。映画会をきっかけとした新規入会数は 8 名だった。

(10) 関西事務局オープンサタデー

平日のボランティア活動への参加が難しい方向けに、毎月第 4 土曜日に関西事務局を開け、同日午後、気軽な勉強会を大阪 JOCS の協力を得て開催した。テーマは幅広く、

4. 国内諸活動

JOCSに関わりのある医療・福祉・健康・国際協力など、毎回多彩な講師を迎えておこなった。毎回平均16名の参加があった。その前後に使用済み切手整理のボランティア活動を行った。

(11) ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。JANICでは、2つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」に参加し、情報及び経験の共有をした。

カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担い、かつ代表選挙準備委員として協力をおこなった。JANNETでは、事務局スタッフが監事として運営に携わった。

「NGO 非戦ネット」(非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク)の活動に賛同して呼びかけ人を務めている。2018年度も他の NGO とともに非戦の声を上げた。

[4-3]マーケティング

この5ヵ年計画においては、最終的には会員増加を目指している。その第一段階として、会員減少に歯止めをかけなくてはならない。また財務基盤の強化のために寄付金の増加も目指している。

そのため、キリスト教書店での広報活動、事務局スタッフによる教会訪問、夏期、冬期募金呼びかけ、新ワーカー派遣による支援呼びかけなどをおこなった。

その結果、2018年度は会員は減少したが、以前に比べ、退会者と新規入会者の数は均衡しつつある。

(1) 会報誌『みんなで生きる』の企画・編集

発行回数：年7回(偶数月10日、11月10日発行)

発行部数：通常号：6,000部

6・7月号(簡易版)：13,000部

子ども号：7,600部

体裁：A4版。通常号および子ども号16ページ、6・7月号4ページ

送付先：会員と年額1万円以上の寄付者等。ただし6・7月号は、年次報告書とともに全支援者に送付した。

特集記事：4・5月号 岩本直美ワーカー第6期活動 中間報告

6・7月号 (簡易版のため特集記事はなし)

8・9月号 タンザニアにまかれた種 弓野綾ワーカー活動報告

- 10・11月号 奨学金事業・ネパールモニタリング報告
 子ども号 JOCS のかかわる保健のしごと、
 「小さな切手の大きな力」使用済み切手運動
- 12・1月号 JOCS につながる人たちからのクリスマスメッセージ
- 2・3月号 山内章子ワーカー活動報告
- その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、協働プロジェクト進捗報告、奨学生紹介、JOCS と私、地区 JOCS からの報告、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。とくに、海外事業においては現地受益者や協力団体スタッフの声を多く掲載した。

評価活動：毎号、都道府県順に 100 人の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付した。毎回 30 通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集・校正ボランティア：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子氏（イラスト）、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏

『みんなで生きる』表紙



(2) 子ども向け出版物

例年発行している『みんなで生きる』増刊号として発行している小学生を対象とした「子ども号」の代替として、子ども向け出版物の作成を計画していた。しかし、新しい出版物を企画・作成するための事務局の体制が整わなかったため、2018 年度は従来どおりの『みんなで生きる』子ども号を発行した。

4. 国内諸活動

(3) 年次報告書

2017年度(2017年4月～2018年3月)の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。JOCSの活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とし、ワーカーと共に活動する人々や奨学生、協働プロジェクトに関わる現地の人々の声を紹介した。また、新しい企画として、JOCSの1年を振り返るページを設けた。

例年どおり、会報誌6・7月号と夏期募金趣意書を同封し発送した。

発行回数：年1回(6月10日発行)

発行部数：13,000部。発送数は10,295部

体裁：A4版。20ページ

送付先：全支援者

評価：アンケートを同封し、225件から回答を得た(回答率2.1%)。9割が「読みやすい」と回答し、9割超が「関心に応える内容だった」と回答した。印象に残った記事としては、「ワーカー派遣」「JOCSのこの1年(新企画)」が多く挙げられた。



(4) ホームページ

ホームページのリニューアルに向けて、各メニューやページの基本構造を見直す協議を重ねた。既存の支援者や潜在的支援者、切手寄付者、潜在的ワーカー志願者などが、求めている情報によりアクセスしやすくなるように、既存のページ構造を見直して、整理し直したのち、制作をホームページ制作会社に依頼し、実際の制作作業を開始した。

(5) プレスリリース

株式会社PR TIMESの社会貢献活動である、プレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用し、プレスリリースをおこなった。11月にチャリティ映画会についてのリリースをおこなった。

記事名：(11/22) 国際協力×名作映画。チャリティ映画会でアカデミー受賞映画『バベットの晩餐会』を上映。

定期的なプレスリリースのための事務局体制は、2018年度中の整備、実施には至らなかった。

(6) 雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の7月号と1月号に1ページ広告を掲載した。7月号ではウガンダの僻地にある診療所で看護師として働いているJOCS奨学生、1月号ではタンザニアの病院の医師として働いているシスターのJOCS元奨学生の働き

の様子を紹介した。

2018年度は、雑誌広告をきっかけに2名の入会者、1名の新規寄付者があった。

(7) キリスト教書店での広報活動

いのちのこぼ社直営のキリスト教書店で、以下のような広報活動をおこなった。

- ・新宿店でのポスター（A1サイズ、1カ所）掲示。
- ・書籍購入者全員へのチラシ配布（全国8店舗と通信販売）。
チラシ約6万枚を配布、15名から資料請求があり、うち10名が入会した。
- ・新宿店店頭での活動紹介イベントを、2018年11月9日（金）、10日（土）の2日間、11時から18時まで、事務局スタッフ2名が実施した。2日間で36名にJOCSの活動を紹介します、5名が入会した。



(8) 教会訪問

関東圏の13教会及び多摩友の会を事務局スタッフが訪問し、活動報告と支援のお願いをした。9名の新規入会、8名の新規寄付者を得ることができた。キリスト教共感層を対象としたプレゼンテーション資料（10分）を作成し、教会訪問担当以外の事務局スタッフでも実施できるようにした。

(9) 継続支援促進

一度寄付をくれた人に、継続して活動を支える会員への移行を促すため、2018年度も夏期募金、冬期募金を送付する際の入会のお願いの手書きメッセージ書きや、映画会来場者へのフォローを実施した。入会のお願いの手書きメッセージでは、具体的な活動についてふれ、入会をはっきりお願いすることで、昨年より多くの人に入会してもらうことができた。

引き続き「会費納入のお願い」送付時にも一定条件を満たす会員に手書きメッセージを添え、会員の継続率維持に努めた。また、日常的に電話やメールなどで支援者との細かいコミュニケーションに努めた。

4. 国内諸活動

(10) 募金

2018 年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2018 年度	依頼件数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	10,567 件	2,212 件	20.9%	22,855,286 円
冬期募金	11,883 件	5,059 件	42.6%	54,362,263 円
その他の募金	—	—	—	10,278,992 円
国別指定	—	—	—	791,230 円
奨学金指定	—	—	—	8,355,000 円
災害救援指定	—	—	—	0 円
海外派遣事業指定	—	—	—	4,000,000 円
総計	—	—	—	100,642,771 円

夏期募金は、例年どおり、6 月発送の年次報告書と『みんなで生きる』6・7 月号に、募金趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金は、趣意書で、タンザニアで医師として働く JOCS の元奨学生の姿を、2018 年 4 月から開始している協働プロジェクトや 2019 年 1 月から派遣した新ワーカーの紹介とともに紹介し、協働プロジェクトの活動写真とコメントを印刷した封筒で発送した。

夏期・冬期募金の趣意書に会員募集の旨を載せたところ、夏期募金で 18 名、冬期募金で 17 名が寄付者から会員へ移行した。また冬期募金の趣意書を過去 1 年間の新規切手協力者 1,342 名に発送したところ、3 名が入会、30 名から新規のご寄付があった。一般寄付の他、特別寄付や奨学金指定、国別指定の寄付が集まった。



(11) 遺贈

高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』冬号に、資料請求ハガキ付きの 3 ページ広告を掲載した。掲載後 4 ヶ月間で 5 名から資料請求があった。夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内したところ、電話や年次報告書アンケートによるパンフレット請求が 5 名からあった。信託銀行や支援者から、遺言書を作成しているとの表明が 4 件あった。2019 年 1 月の自筆証書遺言に関する法改正をふまえて、遺贈パンフレットを改定した。

5. 運営体制

公益法人として法律で定められている社員総会を6月に開催した。その社員総会で選任された新しいメンバーによる理事会も始まり、喫緊の課題はもちろんのこと、長期的な課題も活発に協議した。また、2018年度は、理事会の諮問を受けた4つの委員会が、専門的見地から理事会へ答申をおこなった。

【5-1】 第57 定時社員総会

2018年6月9日(土)、午後1時30分から、東京都新宿区信濃町教会にて、44名の社員の出席と187通の委任状、21通の書面表決を以って、第57回定時社員総会を開催した。議事に先立ち、3月に活動を終えたタンザニア派遣弓野綾ワーカー活動報告、続いて、溝の口キリスト教会仁井田義政牧師の説教があった。その後、2017年度事業報告がおこなわれ、議事である2017年度決算報告、理事および監事の選任が承認、決議された。また、議案審議の終了後には、2018年度事業計画、収支予算報告について説明がなされた。

【5-2】 理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

2018年	4月21日	東京事務局
	6月9日 定時社員総会前	信濃町教会
	6月9日 定時社員総会后	信濃町教会
	7月28日	東京事務局
	9月22日	東京事務局
	12月1日	東京事務局
2019年	1月26日	東京事務局
	3月16日	東京事務局

今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、小宅泰郎、久保礼子、土居弘幸、
名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆、柳澤理子

監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

[5-3] 委員会

(1) 関西地区活動委員会

委員長：船戸正久 副委員長：彼谷廣子

委員：大谷透、小野勝、加輪上敏彦、久保礼子、島田恒、杉村（諏訪）恵子、
高田敏尚、中村満子、和田浩、呉よしこ（事務局）、渋江理香（事務局）

1) 隔月に開催している委員会では、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、バザー、関西 JOCS のつどいに関する協議・反省などをおこなった。

2) 関西事務局開所 50 周年記念イベント開催のための話し合いをおこない、開催した。
詳細は 21 頁[4-2]「国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動」（8）関西事務局開所 50 周年記念イベント」を参照のこと。

(2) 奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：澤田和美、杉村（諏訪）恵子、細谷たき子、宮崎雅、服部由起（事務局）、
松浦由佳子（事務局）

1) 2018 年度奨学生選考

委員会での協議の結果、6 カ国から申請のあった 74 名のうち、17 名を採用した。
採用結果について理事会に答申をおこない、全員承認された。

支給決定者 17 名のうち、タンザニアの 1 名は家庭の事情で進学できなくなったため、奨学金を辞退した。またタンザニアの 1 名は、国内の試験制度変更により、希望のコースに進学できなくなったため、進学を取りやめ、奨学金を辞退した。

対象国	2018 年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	1	1
ネパール	6	4
バングラデシュ	1	1
ウガンダ	55	4
ケニア	1	1
タンザニア	10	6
合計	74	17

この結果、2018 年度はインドネシア 4 名、ネパール 11 名、バングラデシュ 6 名、ウガンダ 11 名、ケニア 1 名、タンザニア 14 名の合計 47 名に奨学金の支援をおこなった。詳細は 2018 年度奨学生一覧（9～10 頁）を参照。

2) それぞれの国や協力団体の現状を考慮し、また JOCS の海外 3 事業の連携を念頭に、奨学金事業の国別戦略および奨学金事業カウンターパートについて検討をおこなった。

(3) 財務委員会

委員長：榛木恵子 副委員長：羽山信輝

委員：黒川純、飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）

例年と同じ様に、委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、財務運営が適正に行われていることを確認した。2018年3月に内閣府立入検査でなされた助言をふまえた対応状況も確認した。費用の変更に対応するため、2回メール協議を行って補正予算を協議の上承認し、7月定例理事会、12月定例理事会に提出してそれぞれ承認を受けた。

年度後半には東京事務局で委員会を開催し、決算見込みを確認の上、事務局が立案した2019年度予算案を調整し、会長に提出した。

5カ年計画2018に沿った計画への支出についても、大所高所から助言した。

(4) 物語委員会

委員長：畑野研太郎

委員：植松功、名取智子（事務局）

2018年6月及び12月に委員会を開催した。活動の中で与えられた様々な物語をJOCSの広報物、活動報告会、啓発冊子等に展開するため、2019年度に物語データベースを作成することを理事会に提案し、承認された。物語の収集、展開、検索の方法を想定し、データベースの項目を検討した。

[5-4] 事務局

2016年から東京事務局として賃借していた日本キリスト教会館51号室を所有者から購入した。事務所取得資金を取り崩して購入資金に充てた。

2018年度は東京事務局は8名体制、関西事務局は期中退職1名と期中入局1名がいたため、実質3名体制であった。また2018年度も使用済み切手運動に関する仕事、事務局の仕事、各種イベントにおいて多くのボランティアの協力を得ることで活動を実施できた。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子、河井敦、小池宏美、高橋淳子、

服部由起、松浦由佳子、(育児休職：森田真実子)

関西事務局 渋谷理香、石野祥子（～8月）、呉よしこ（1月～）、

斎藤桂

6. 社員会員・一般会員の現状報告

2019年3月31日現在

社員会員	316名
一般会員	3,296名
合計	3,612名

2018年度中の社員会員、一般会員の異動

1. 社員会員

(1) 新たに社員会員となられた方	6名
(2) 一般会員から社員会員になられた方	5名
(3) 社員会員を辞し、一般会員となられた方	5名
(4) 退会された方	12名

2. 一般会員

(1) 新たに入会された方	159名
(2) 退会された方	202名

7. 2018年度の主な動き

4月

- 2日 斎藤桂氏入局
- 7日 京都 JOCS チャリティーウォークソン（鴨川河川敷）
- 17日～25日 ワーカーリトリート会議（バングラデシュ）
- 18日～29日 服部由起職員新規協働プロジェクト調査等のためタンザニア出張
- 23日～5月3日 原田真帆氏ケニア短期派遣
- 28日 オープンサタデー（関西事務局）

5月

- 12日 関西 JOCS バザー（大阪聖パウロ教会）
- 21日～26日 松浦由佳子職員協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張
- 26日 オープンサタデー（関西事務局）

6月

- 2日 国際保健医療勉強会（東京事務局）
- 9日 第57回定時社員総会（東京 信濃町教会）

16日－17日 広島スタンプショウに出店（広島県立産業会館）

23日－24日 高知 JOCS のつどい

23日 オープンサタデー（関西事務局）

7月

7日 国際保健医療勉強会（キリスト教会館会議室）

28日 オープンサタデー（関西事務局）

31日 弓野綾ワーカー退職

8月

25日 オープンサタデー（関西事務局）

28日－9月3日 森田隆事務局長協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張

9月

2日－22日 山内章子ワーカーケニア出張

21日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都コンサートホール）

22日 オープンサタデー（関西事務局）

26日－10月5日 松浦由佳子職員協働プロジェクトモニタリングのためケニア出張

29日 グローバルフェスタ JAPAN2017に出展（お台場・センタープロムナード公園）

10月

6日 神戸 JOCS のつどい（神戸栄光教会）

15日－28日 森田隆事務局長、服部由起職員協働プロジェクトモニタリング等のため
タンザニア出張

27日 オープンサタデー（関西事務局）

27日－28日 フィールドワーク in 名古屋（名古屋市）

11月

9日－10日 オアシスブックセンター新宿店にてイベント開催（新宿）

10日 国際保健医療勉強会（キリスト教会館会議室）

17日 関西事務所開所 50周年記念イベント（浪花教会）

22日 チャリティ映画会「バベットの晩餐会」（江東 カメリアホール）

24日 オープンサタデー（関西事務局）

12月

1日 雨宮春子氏ワーカーに就任

8日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ）

7. 2018年度の主な動き

- 9日 山内章子ワーカー帰国
- 11日 関西事務局ボランティアお疲れ様会（関西事務局）
- 16日 雨宮春子ワーカー派遣祝福式（聖公会札幌聖ミカエル教会）
- 22日 オープンサタデイ（関西事務局）

1月

- 7日 雨宮春子ワーカータンザニアに赴任
呉よしこ氏入局
- 26日 オープンサタデイ（大阪 JOCS と共催）（関西事務局）
- 28日 東京事務局ボランティア交流会（キリスト教会館会議室）

2月

- 2日－3日 ワン・ワールド・フェスティバルに出展
（カンテレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園）
- 22日 国際保健医療勉強会（キリスト教会館会議室）
- 23日 京都 JOCS のつどい

3月

- 16日 神戸 JOCS のつどい（神港教会）
- 17日 芦屋 JOCS のつどい（芦屋川教会）
- 23日 オープンサタデイ（関西事務局）
- 23日－4月7日 原田真帆氏ケニア短期派遣
- 24日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）
- 31日 山内章子ワーカー退職
服部由起職員退職

愛媛新聞 2018年6月28日

愛媛新聞

2018年(平成30年)6月28日 木曜日

命と健康守り3年間汗

タンザニアでの医療活動を報告

松山東京の医師

アフリカ・タンザニアで医療活動に取り組んだ医師弓野綾さん(35)＝東京都＝の帰国報告会が26日夜、松山市味酒町2丁目の日本

キリスト教団松山教会であり、命と健康を守るために汗を流した3年間を振り返った。

弓野さんは静岡市出身で、分野を超え総合的に診療する家庭医。

日本キリスト教海外医療協力会(JOCS、東京)派遣ワーカーとして2015年4月、

タンザニアでの3年間の医療活動を振り返る弓野さん



同国タボラ州に赴任し、今年3月帰国した。弓野さんは、同州の人口1万人当たりの病

床数と医師数はわずか1・5床、0・26人と「国内でも医療に恵まれない地域」と説明。

炭水化物や油物中心の食生活のため糖尿病病者が増加しており、病院に慢性疾患外来を立ち上げ、食事指導などに携わり「人々が長く健康に暮らすためにできることを考えた」と述べた。

報告会はJOCSが主体となって全国で開催。26日は約50人が参加した。(菅亮輔)